

信州大学

信州大学農学部附属演習林における 2018 年のトピック

演習林刊行物の紹介

AFC 第 1 次編成運営計画書

演習林では昭和 32 年より 5 年おきに教育研究計画書を発行してきた。2018 年度より始まる第 11 次計画書は農場の第 3 次編成計画書と合冊して、AFC 第 1 次編成運営計画書として発行した。演習林第 11 次編成管理計画の指針として、これまで明確に定義されていなかった各ステーションの林班ゾーニングを行った。ゾーニングは植生の構造、立地環境、演習の実施状況、中・長期試験地の存在を配慮して行った。これにより、構内ステーションは学習・研究林ゾーン、樹木園ゾーン、苗畑ゾーンの 3 つのゾーンに分類されることになった。西駒ステーションは山岳域自然植生ゾーンと高標高域人工林ゾーン、手良沢山ステーションは山地帯自然植生ゾーンと里山域人工林ゾーン、野辺山ステーションは高冷地自然植生ゾーンと高冷地カラマツ人工林ゾーンの 2 つのゾーンに分類されることになった。あわせて、これまで明示されていなかったカラマツ人工林の保育実施基準を新たに設定した。これにより、カラマツの除草刈りは植林後、最長 4 年目まで行うこと、10 年生時に蔓切り・除伐、20 年生時に保育間伐、40 年生時と 60 年生時の 2 回に生産間伐を行うこととした。また、巻末にこれまで演習林報告、AFC 報告等に発表された演習林に関する主要論文リストを掲載し、データアーカイブとしての充実を図った。AFC 第 1 次編成運営計画書は、AFC のホームページよりダウンロードできる。http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/docs/fyp_first_organization.pdf

AFC 報告

信州大学農学部演習林報告は 1957 年に第 1 号が発行された。演習林のセンター化に伴い、2003 年からは信州大学農学部 AFC 報告として発行され、2017 年には第 15 号の発行に至った。数年にわたる議論の末、2018 年からは印刷媒体の発行を取り止め、電子媒体のみの刊行を行うこととした。AFC 報告は電子ジャーナルとして信州大学学術情報オンラインシステム SOAR より閲覧できる。https://soar-ir.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=1070&pn=1&count=20&order=7&lang=japanese&page_id=13&block_id=45

平成 29 年度教育関係共同利用拠点事業（演習林）報告書

「南信州を舞台とした自然の成り立ちから山の生業までを学ぶ教育関係共同利用拠点」の平成 29 年度の事業成果を報告書としてまとめた。平成 29 年度には全国 26 の大学等の機関から、のべ 3,178 名の学生、院生らに演習林を利用いただいた。同報告書は AFC のホームページよりダウンロードできる。http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/docs/h29_kyodoriyou_houkokusho_exercise_forest.pdf

また、本共同利用拠点は「信州を舞台とした自然の成り立ちから山の生業までを学ぶ教育関係共同利用拠点」として、平成 30 年 9 月に再認定された。皆様の引き続きのご利用をお待ちしております。



写真 1. 右の緑色の冊子は平成 29 年に印刷媒体としては最後に刊行された AFC 報告第 15 号